資料①

第５回 佐賀市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定推進委員会
議事概要

〇日時

平成 27 年 11 月 10 日（火）10：00～12：00

〇場所

ほほえみ館 4 階　大会議室

〇出席者

【委員】

田代 勝良（会長）、上野 景三（副会長）、小城原 直、山田 義弘、大島 一紀、久野 絹子
松石 礼子、吉田 榮治、池田 隆彦、坂本 広樹、大久保 美奈子、高取 八束、村岡 美鈴

【事務局】

＜市＞成富福祉総務課長、牛島福祉政策係長、村里
＜社協＞貞富事務局長、吉武地域福祉課長、森木地域福祉係長、渡邊主幹

【傍聴者】　なし

〇協議事項

1.　【確認】会議の公開
2.　【確認】第 4 回委員会（H27.10.20）議事概要
3.　計画素案について

〇協議内容

田代会長のあいさつの後、本日の委員会が開始された。

１　【確認】会議の公開

２　【確認】第 4 回委員会（H27.10.20）議事概要

田代会長の議事進行により、会議の公開、第 4 回議事概要が確認された。

３　計画素案について

事務局より、配布資料を使用しながら、「計画素案」について説明を行った。その後、以下のような質疑応答等が交わされた。

（上野副会長）

第 2 章で示されている世帯構成の状況について、人口と同じように将来推計値を掲載できないだろうか。

（事務局）

公表されているものがあれば掲載したいが、人口と異なり難しいと思う。確認したい。

（上野副会長）

第 2 章第 2 節に支援を必要とする人や世帯のことが示されていて、引き続き、次の節などで、そのような人たちや世帯のことを支援する組織・団体についての説明があると、つながっていくと思うのだが、第 2 章は、そのような構成になっていないように思う。

（事務局）

ご指摘の趣旨を踏まえ、修正を検討したい。

（大島委員）

ふれあいサロンについて、参加者が増えているところがある一方で、老人クラブへの加入者

が減少傾向にある。老人クラブの活動として取り組んでいる定期的な集まりが、ふれあいサロンと同じようなものになっていることが、減少傾向にある大きな理由のひとつで、老人クラブに入って、集まりに参加して活動するよりも、費用的に意味からも、ふれあいサロンを選択する方が良いと考える人が多いようだ。老人クラブの活性化のためにも、サロン活動について調整が必要ではないかと思う。

また、サロン活動については、地域差も大きいように思う。

（田代会長）

「・・生活保護や児童扶養手当等の公的扶助制度を適切に活用することで、貧困状態に陥らないようにするとともに、・・」（配布資料 13 頁）との表現があるが、適当でないと思われるので、誤解のない表現に修正を加えた方が良いと思う。

（事務局）

ご指摘のとおり、検討のうえ、修正したい。

（大島委員）

「・・地域共生ステーション（宅老所・ぬくもいホーム）・・」との表現は正しいのか。

（事務局）

このような呼称としている。

（小城原委員）

計画素案のなかで地域福祉にかかわる多くの取り組みが示されているが、佐賀市がこれからも発展していくためには、子ども人口が増加するような施策、子どもを産み育てる世代である若い人たちの生活基盤をきちんと整備していくことが大切だと思うのだが。

（事務局）

委員ご指摘のとおり、ご指摘の件は佐賀市にとって大変重要な課題であると思う。ただ、人口増加に向けた施策は市全体での総合的なもので、たとえば総合計画のようなところで、また、子どもや子育て支援に関する施策については、子ども・子育て支援事業計画のような個別の行政計画において検討していくことが、より適当ではないかと思う。

（池田委員）

重点プロジェクトとして「福祉活動の担い手づくり」が掲げられ、福祉協力員のことが挙がっているが、どれくらいの福祉協力員数を考えていて、それに対し、現在どのような状況にあるのか教えてもらいたい。

（事務局）

資料にあるように約 50 世帯に 1 人の福祉協力員を考えると、2,000 人が目標となる。現在、旧佐賀市の 19 小学校区にうち、8 校区で福祉協力員、もしくはそれに類似した役割を担う人たちが配置され、活動している。

（小城原委員）

そのような現状にある福祉協力員について、全市的な取り組みとして進めていくため、どのようなことを考えているのだろうか。自治会にきちんと説明し、協力を求めながら、上手に進めていくことが大切になると思う。もちろん、このことは、まちづくり協議会に対しても同様。

（事務局）

ご指摘のとおり、関係する組織団体と連携を図りながら、進めていきたい。

（大島委員）
　まちづくり協議会については、混乱している状態がまだまだ続いているように思えるし、福祉協力員が民生委員の下部に位置づけられるとすれば、ちょっと疑問。活動費のことについてもきちんと整理する必要があると思う。地域にはボランティアグループがあるけど、そこで活躍している人たちが福祉協力員になっていくのかな、と思っている。いずれにしても、自治会にきちんと理解を求めていくことが大切。
（事務局）
　ご指摘のとおり、まちづくり協議会の現状については方向性が十分に定まっていないところも多く、地域差が大きいように思うし、福祉協力員のことでは、自治会との協力関係を含め、地域において混乱がないように努めたい。
（坂本委員）
　福祉協力員の選出はどのように考えているのか。
（事務局）
　自治会から推薦してもらって、校区社会福祉協議会の会長が委嘱するような形が適当ではないかと思っている。
（上野副会長）
　重点プロジェクトについては、やりたいと考えていることやアイデアは理解できるけど、漠然とした表現ではなく、実態を踏まえつつ、実現に向けた道筋を描き、それを何らかの形で示すことが、予算措置のことも考えると、大切になってくるのではないだろうか。
（田代会長）
　重点プロジェクトについてはイメージ図が示されているけど、そのなかで、横のつながりが見えてこないので、その点、もう一工夫した方が良いように思う。
（池田委員）
　もうひとつの重点プロジェクトとして「気軽に集える居場所づくり」が挙がっているが、たとえば、ひきこもりがちの人たちをどのように引き出していくのか、大変難しい問題であると思う。ただその一方で、高木団地で取り組んでいるカフェでは、開催する度ごとに参加者が増加している。やり方次第だと思う。
（坂本委員）
　まちづくり協議会の準備会のなかで、地域の組織や団体のどこにも属していない人たちのことについて話し合っているところ。楽しい内容になるよう工夫していくことが大切かもしれない。
（大島委員）
　サロンには本当に来てほしい人たちがなかなか参加してくれない、という現状がある。住民をうまく巻き込んでいくことが大切だと思う。
（大久保委員）
　サロンなどにひとりで参加するというのは難しいように思える。PTA でも同じようなところがあるけど､横のつながりで誰かが誘って連れ出すことが大事かもしれない｡いずれにしても、最初の第一歩が難しいけど、とても大切。それと、子どもにも何か役割を与えていくことも大切かもしれない。担い手づくりについては、子どもの頃からかかわってもらうことがとても大

事だと思う。
（山田委員）
　高齢者の会食会を30年近く続けてきたけど、担い手不足もあって、今年の3月、その活動を解散した。けど、自治会などが協力するやり方に見直し、会の名称を変えて、この9月から新たに出発した。見方ややり方が変えていくことで、これまでとは違った形で、これから会食会が蘇っていくかもしれない。
（高取委員）
　集合住宅を建設する時などには自治会に加入してもらうことを条件にしていて、そんな強制的なことを考えないと、今の若い人たちはなかなか自治会に入ってくれない。また、自治会の役員も、自治会加入を促進するため、きちんと説明、説得を行っていくことが大切かと思う。
（大島委員）
　この計画に関連することで一番の希望は、福祉バスの増車。何とかならないものだろうか。
（事務局）
　優先度を考えながら進めているところだが、福祉バスの増車は大変厳しい。
（坂本委員）
　地域ごとに異なる課題を抱えているところもあるので、その意味からも、それぞれの地域のまちづくり協議会が果たしていく役割が大きいように思う。そのような趣旨のことをこの計画に盛り込んでいくことはできないだろうか。
（上野副会長）
　校区ごとの計画が必要かもしれない。次期計画ではぜひトライしてもらいたい。また、評価指標になるものの提示が必要だと思う。
（事務局）
　総合計画で示されている指標を参照し、この計画の評価指標として、盛り込みたい。

　事務局より、次回委員会を2月5日に開催する旨、説明があり本委員会は終了となった。

以上